

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2019年 10月 26日

所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	義村 弘仁

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
熊本県
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物福祉実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
2019年 10月 21日 ~ 2019年 10月 24日 (4日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
熊本サンクチュアリ
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回の実習では、飼育下のチンパンジーおよびボノボのためのエンリッチメントデバイスを2班にわかれてそれぞれ考案・作成し、使用時間を2種間で比較した。私たちのチームはより長い時間を費やしてもらうことに主眼を置いた。熊本サンクチュアリのチンパンジーとボノボが日替わりのエンリッチメントの一環として餌の入った厚紙の筒や新聞紙を与えられていることを利用し、それらをさらに透明なプラスチックの筒に入れ、さらに出口の大きさを制限することで指先のみで筒を引き出す必要のある装置を設計した(図1)。6個の装置を作成し、5個体のチンパンジーに6個、3個体のボノボに3個の装置を与えて使用時間を計測した。1時間の観察時間のうち、チンパンジーでは合計150分、ボノボでは67分を費やしてもらうことができた。また、装置の外からは餌はほとんど見えないにもかかわらず、2種とも厚紙の筒を取り出そうとしたことから、紙筒の中には餌が入っているという経験に基づいてやる気を引き出すことができることがわかった。しかし、餌の入った紙筒を普段与えられていない個体においては装置に向かう時間が異なる可能性がある。今後京都市動物園のチンパンジーに同じ装置を与えて観察し、経験の有無による使用時間の差が生まれるかを検証する予定である。</p> <p>チンパンジーとボノボを比較した際、装置の扱い方や使用時間に大きな違いが見られた。チンパンジーは紙筒を破いて中身を取り出していたのに対し、ボノボは縁を破る程度で、時には枝を使って押し出すことで中身を取り出していた。また、チンパンジーは出てきた餌の種類に関わらず食べ続けていたのに対し、ボノボでは質の低いキャベツや大根などの餌は無視し、ピーナッツや玉ねぎを優先的に探して食べてから残りの餌を食べていた。非常に近縁とされる2種で装置に対する明確な違いが見られたのは非常に興味深かった。</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="181 1538 675 1906" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="831 1538 1355 1906" data-label="Image"> </div> </div>
6. その他 (特記事項など)